

新ひだか町立病院コラム Vol. 61

心電図 AI 解析装置の導入について

生理機能検査室の背山、茨木です。

令和8年1月から、地域の皆さんを心房細動（不整脈）から守りたいという思いから、道内でもまだ数台しか導入されていない先進的な解析機器を生理機能検査室に導入しました。現在は外来や入院中の患者さまの心電図検査のほか、健康診断などで活用しています。この機器は、心電図で記録された波形を AI が解析し、将来、心房細動を発症する可能性を予測します。動悸や違和感があるものの、通常の検査では異常が見つからない方でも、隠れているリスクを推測できる場合があります。

心房細動になると、心臓の中に血のかたまりができやすくなり、それが脳に飛ぶことで脳梗塞（心原性脳梗塞症）を起こす可能性があります。また、心不全が悪化し、入退院を繰り返す原因になることもあります。早期にリスクを予測・発見することで、不整脈を治療するカテーテル治療（アブレーション）や、血液をサラサラにする薬による脳梗塞予防、心不全の悪化を防ぐ対策につなげることができます。

検査を受ける皆さまにとって、多くのメリットが期待されます。今後も安全で質の高い検査体制の充実に努めてまいります。



40歳以下の方、不整脈がある方、ペースメーカーを使用されている方などは正確な予測ができない場合がありますので、あらかじめご注意ください。



院長のつぶやき

院長の小松です。

心房細動は、心臓の上部に位置する心房が不規則に動くことによって起こる不整脈の一つです。この疾患は自覚症状がない場合も多く、ご本人が気づかないうちに進行することがあります。しかし、心房細動は脳梗塞や心不全の発症リスクを高める重要な要因となります。特に、心房細動があると心臓内で血栓（血のかたまり）が形成されやすくなり、その血栓が血流に乗って脳に達すると脳梗塞を発症することがあります。そのため、症状がなくても、早期発見と適切な治療が大変重要です。

近年、医療分野の AI（人工知能）の進歩が目覚ましく、心房細動の診断や治療にも新たな可能性が広がっています。当院に導入した AI 搭載の心電図解析システムは、わずかな心拍の乱れや自覚症状のない心房細動を高精度で検出することができます。検査は簡単で、従来の心電図検査と同様に検査ベッドに横になるだけで受けていただけます。

なお、心房細動のリスクが高いと診断された場合でも、直ちに治療を開始するわけではありません。定期的かつ慎重な経過観察を行い、実際に不整脈が確認されたら段階で適切な治療を行います。

今後も、皆さまの健康を守るために質の高い医療サービスを提供していきたいと思っております。

